

## 観光地域づくり法人形成・確立計画

## 1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <b>地域DMO</b>	
観光地域づくり法人の名称	株式会社かまいしDMC	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	岩手県釜石市	
所在地	岩手県釜石市魚河岸3-3	
設立時期	平成30年4月2日	
職員数	20人【常勤15人（正職員12人・出向等3人）、非常勤5人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 河東 英宜「専従」	代表取締役兼CMO。2021年5月より現職。総合旅行業管理者。「地球の歩き方」を発行する出版社の旅行マーケティング部門長を経て、2017年に（株）パソナグループ入社。New Value Creation Fund投資政策委員会事務局にて地方創生事業に取り組むなかで、2018年4月（株）かまいしDMC設立に出資参加。早稲田大学トランスナショナルHR研究所招聘研究員。 Professional Certificate in Sustainable Tourism（2021年5月取得）
データ収集・分析等の専門人材（CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 河東 英宜「専従」	代表取締役が兼任。
財務責任者（CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 大杉 尚也「専従」	財務省関東財務局、金融庁で4年間勤務。MBA（一橋大学大学院経営学修士）取得。現在は、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保等、財務全般を担当。CMOサポートも行う。
サステナビリティ・コーディネーター	（氏名） 久保 竜太 （出身組織名） 釜援隊	「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」で定める「サステナビリティ・コーディネーター」。釜石リージョナルコーディネーター協議会（釜援隊）で観光行政を担当し、かまいしDMC設立に伴い移

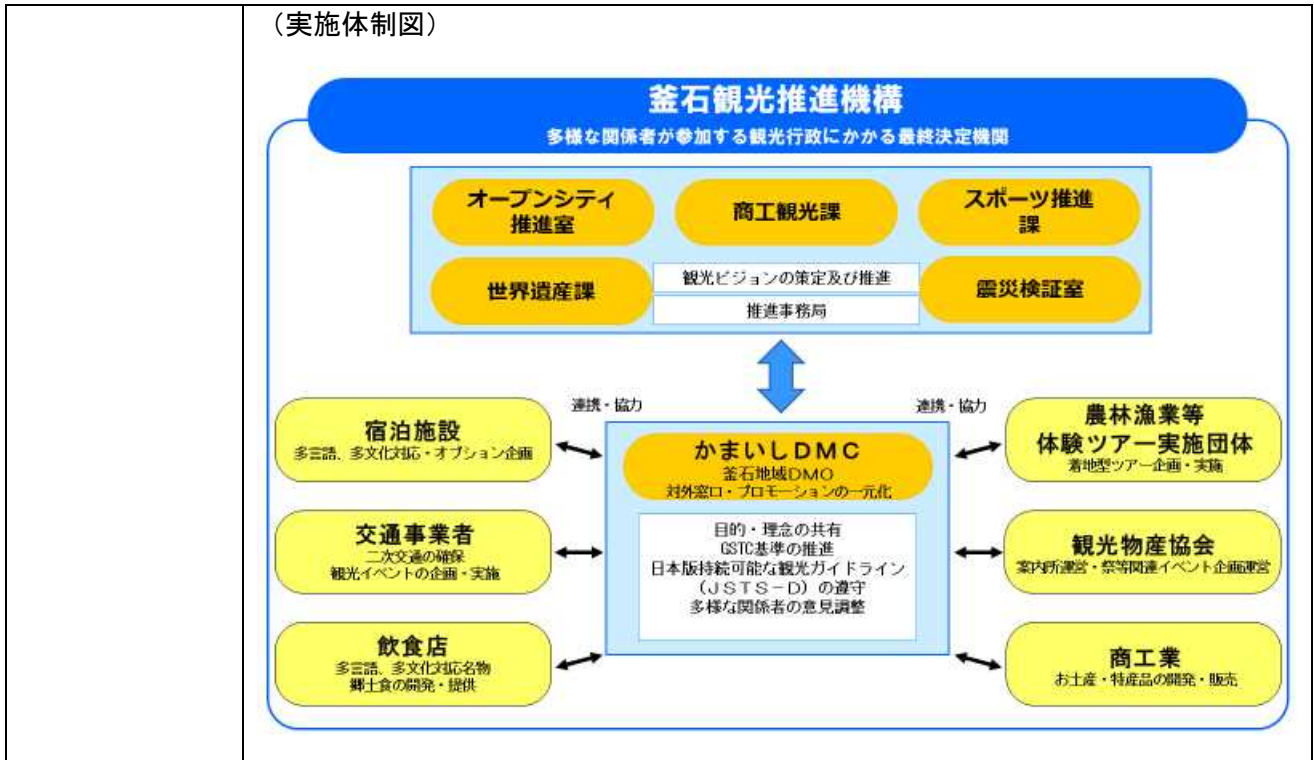
## (別添) 様式 1

		籍。GSTC 認定の国際認証に関する業務を中心に、持続可能な観光の推進を担当している。
旅行商品造成・販売	(氏名) 佐藤奏子「専従」	日本大学芸術学部写真学科卒。GSTC STTS Exam 合格。主に体験プログラムの造成・企画・実施を担当。AA フリーダイビングインストラクター・AAA スキンダイビング&シュノーケリングインストラクター、JASCA シーカヤック & SUP ベーシックインストラクター、三陸ジオガイド、無人航空マルチコプター操縦技能者講習終了。
地域商社事業部	(氏名) 花堂 佳月「専従」	米国 DePauw University 卒。星野リゾートを経て 2020 年に入社。岩手釜石オンラインショップの運営、ふるさと納税の運営等を通じて、地域の特産品の開発、稼ぐ地域づくりを実践している。
事業開発	(氏名) 浅間 祐輝「専従」	慶応大学商学部卒。大手人事コンサルを経て入社。SDGs プログラムや DMO 研修等、釜石での受入れプログラムの設計・開発。加えてプロモーションも行う。
CEO 付経営企画担当 アクションプラン策定	(氏名) 山崎 緑	慶応大学商学部卒。人事コンサルティング会社を経て入社。釜石市の後期観光振興ビジョン、アクションプラン策定のほか、CEO 付経営企画を担当。2021 年 5 月、観光庁公募「上質なサービスを支える人材育成に向けた留学支援事業」に合格。今夏よりフロリダ州立セントラル・フロリダ大学に留学予定。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	岩手県釜石市産業振興部商工観光課（マーケティング、観光振興） 総務企画部総合政策課オープンシティ推進室（関係人口構築） 総務企画部総合政策課 震災検証室（震災伝承） 文化スポーツ部スポーツ推進課（ラグビー推進） 岩手県観光プロモーション室 県内連携	
連携する事業者名及び役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人釜石観光物産協会（イベント事業、プロモーション）</li> <li>・一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校（着地型旅行商品開発・運営）</li> <li>・釜石うみ・やま連携交流推進協議会（伝統芸能・漁業体験・農業体験等）</li> <li>・釜石商工会議所（特産品開発）</li> <li>・釜石青年会議所（イベント実施）</li> <li>・旅館・ホテル組合（旅行動向調査、商品開発）</li> <li>・釜石地方森林組合（カーボンクレジット、研修受入れ）</li> <li>・JR 東日本旅客鉄道（旅行商品開発）</li> <li>・三陸鉄道株式会社（旅行商品開発）</li> <li>・日本航空株式会社（観光地開発支援）</li> <li>・岩手銀行、北日本銀行、東北銀行（情報共有等）</li> <li>・(株)パソナ東北創生（企画・運営）</li> <li>・東北観光推進機構（広域連携）</li> </ul>	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】② DMO が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置 (概要) 観光推進の最高意思決定者を市長とする「釜石観光推進機構」のもと、観光に関わる多様な関係者と DMO とが連携して地域の観光を推進している。	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識	定期的に住民参加型のワークショップや外部講師を招いての地域住民への啓発を目的としたシンポジウムを開催。 特に毎年 2 月は、ステークホルダーに向けた観光フォーラムを実施。「持続可能な観光」をテーマに講師を招き、世界における観光の動向、日本における政策の動	

(別添) 様式 1

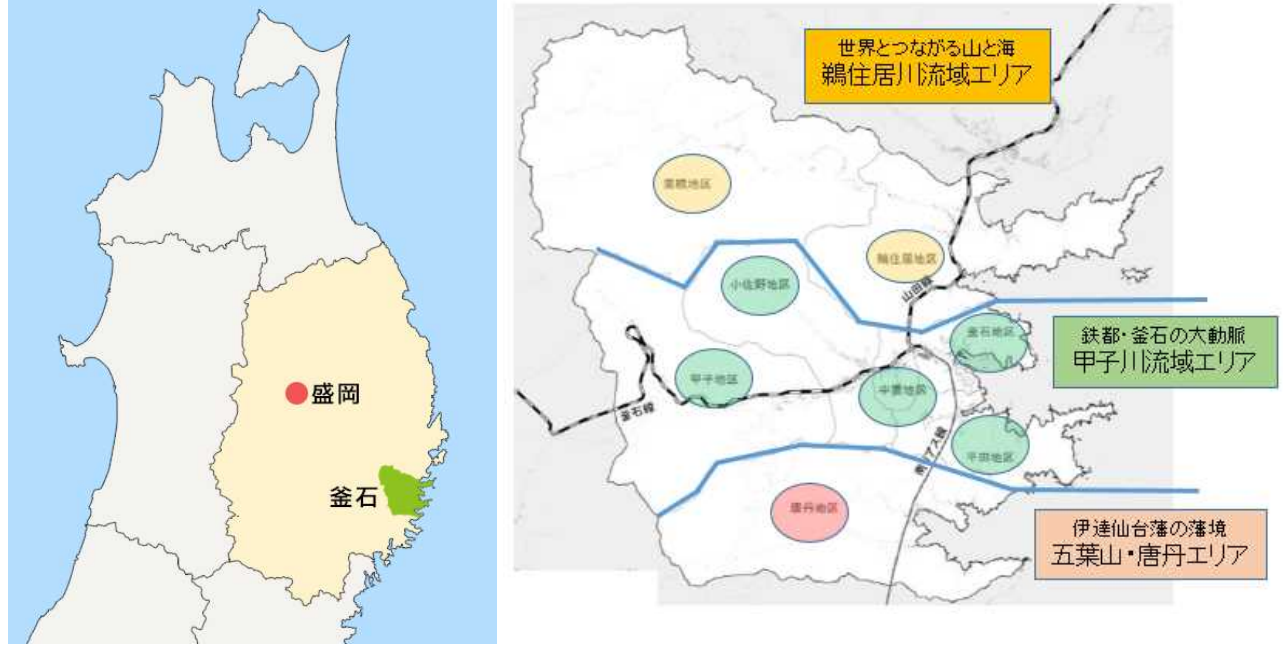
<p>啓発・参画促進の取組</p>	<p>向と、かまいしDMCによる観光調査報告、現状の取組みについて報告を行っている。</p> <p>平成 30 年：「持続可能な観光とジオパークと DMO」          国連世界観光機関のアリアナ氏、GSTC のミヒー氏をお招きしての同時通訳セミナーを開催。</p> <p>令和元年：「持続可能な観光 東北フォーラム」          国連世界観光機関、広域 DMO（東北観光推進機構）をお招きし、市民ホールで実施。</p> <p>令和 2 年：「ディスティネーション・マネージメント」          コロナ禍で市民ホールでの実施が困難であったことから、WEB 開催。          観光庁土居室長、一橋大 MBA 鎌田准教授の講演。</p>						
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <table border="1" data-bbox="395 629 1369 2000"> <thead> <tr> <th data-bbox="395 629 580 678">事業</th> <th data-bbox="580 629 1369 678">実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="395 678 580 1218"> <p>情報発信・プロモーション</p> </td> <td data-bbox="580 678 1369 1218"> <p>【平成 30 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア、ニュージーランド、フィジー国籍モニターに対して防災プログラムを実施。</li> <li>・visit kamaishi Facebook ページ（英語）の強化</li> <li>・海外プレス（ロイター、AFP 等）の体験プログラム視察</li> <li>・ASEAN 各国視察官に防災プログラム実施</li> </ul> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁村体験 外国人モニターを招聘</li> <li>・外国人向け 伝統芸能体験プロモーションビデオ作成</li> </ul> <p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向け youtube 観光チャンネル・instagram 開設</li> <li>・オンラインツアー実施（東北観光推進機構共催）</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1218 580 2000"> <p>受入環境の整備</p> </td> <td data-bbox="580 1218 1369 2000"> <p>【平成 30 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サステナブルツーリズム国際認証のアセスメント受け入れ（日本初）</li> <li>・飲食店向け指さし会話帳（4 カ国）作成 等</li> </ul> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波伝承施設ガイドの英語化</li> <li>・ISMS27001 国際認証取得</li> <li>・ハラル・ビーガンセミナー開催</li> <li>・魚河岸テラス、うのすまい・トモス、根浜シーサイドキャンプ場の開設、Wi-Fi 設置</li> </ul> <p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営するカフェでの紙ストローを使用</li> <li>・キャンプ場では間伐材を利用した木皿の利用等プラスチックゴミの軽減に取り組んでいる。</li> <li>・鶴住居駅前の津波伝承施設～鶴住居復興スタジアム～根浜キャンプ場～箱崎半島（国立公園）について、アクセス改善と環境への配慮から貸し自転車を設置した。</li> <li>・スタッフ 8 名が国際基準 GSTC のトレーニングプログラムを修了。</li> <li>・持続可能な観光地マネジメントの担当者サステナビリティ・コーディネーターを配置。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	<p>情報発信・プロモーション</p>	<p>【平成 30 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア、ニュージーランド、フィジー国籍モニターに対して防災プログラムを実施。</li> <li>・visit kamaishi Facebook ページ（英語）の強化</li> <li>・海外プレス（ロイター、AFP 等）の体験プログラム視察</li> <li>・ASEAN 各国視察官に防災プログラム実施</li> </ul> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁村体験 外国人モニターを招聘</li> <li>・外国人向け 伝統芸能体験プロモーションビデオ作成</li> </ul> <p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向け youtube 観光チャンネル・instagram 開設</li> <li>・オンラインツアー実施（東北観光推進機構共催）</li> </ul>	<p>受入環境の整備</p>	<p>【平成 30 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サステナブルツーリズム国際認証のアセスメント受け入れ（日本初）</li> <li>・飲食店向け指さし会話帳（4 カ国）作成 等</li> </ul> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波伝承施設ガイドの英語化</li> <li>・ISMS27001 国際認証取得</li> <li>・ハラル・ビーガンセミナー開催</li> <li>・魚河岸テラス、うのすまい・トモス、根浜シーサイドキャンプ場の開設、Wi-Fi 設置</li> </ul> <p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営するカフェでの紙ストローを使用</li> <li>・キャンプ場では間伐材を利用した木皿の利用等プラスチックゴミの軽減に取り組んでいる。</li> <li>・鶴住居駅前の津波伝承施設～鶴住居復興スタジアム～根浜キャンプ場～箱崎半島（国立公園）について、アクセス改善と環境への配慮から貸し自転車を設置した。</li> <li>・スタッフ 8 名が国際基準 GSTC のトレーニングプログラムを修了。</li> <li>・持続可能な観光地マネジメントの担当者サステナビリティ・コーディネーターを配置。</li> </ul>
事業	実施概要						
<p>情報発信・プロモーション</p>	<p>【平成 30 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア、ニュージーランド、フィジー国籍モニターに対して防災プログラムを実施。</li> <li>・visit kamaishi Facebook ページ（英語）の強化</li> <li>・海外プレス（ロイター、AFP 等）の体験プログラム視察</li> <li>・ASEAN 各国視察官に防災プログラム実施</li> </ul> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁村体験 外国人モニターを招聘</li> <li>・外国人向け 伝統芸能体験プロモーションビデオ作成</li> </ul> <p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向け youtube 観光チャンネル・instagram 開設</li> <li>・オンラインツアー実施（東北観光推進機構共催）</li> </ul>						
<p>受入環境の整備</p>	<p>【平成 30 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サステナブルツーリズム国際認証のアセスメント受け入れ（日本初）</li> <li>・飲食店向け指さし会話帳（4 カ国）作成 等</li> </ul> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波伝承施設ガイドの英語化</li> <li>・ISMS27001 国際認証取得</li> <li>・ハラル・ビーガンセミナー開催</li> <li>・魚河岸テラス、うのすまい・トモス、根浜シーサイドキャンプ場の開設、Wi-Fi 設置</li> </ul> <p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営するカフェでの紙ストローを使用</li> <li>・キャンプ場では間伐材を利用した木皿の利用等プラスチックゴミの軽減に取り組んでいる。</li> <li>・鶴住居駅前の津波伝承施設～鶴住居復興スタジアム～根浜キャンプ場～箱崎半島（国立公園）について、アクセス改善と環境への配慮から貸し自転車を設置した。</li> <li>・スタッフ 8 名が国際基準 GSTC のトレーニングプログラムを修了。</li> <li>・持続可能な観光地マネジメントの担当者サステナビリティ・コーディネーターを配置。</li> </ul>						

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」のロゴ使用の条件を満たし、使用承諾を受けた。</li> <li>・GSTC 認定の国際認証機関グリーン・デスティネーションズの認証プログラムに 2018 年から参画し、「世界の持続可能な観光地 100 選」や「グリーン・デスティネーションズ・アワード ブロンズ賞」など、2020 年までに 4 回の国際的な賞を受賞。</li> </ul> <p><b>観光資源の磨き上げ</b></p> <p>【平成 30 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際防災会議エクスカッション受入れ 国内向け防災プログラムを国外向けに改良し、多国籍の専門家集団やニュージーランドの高校生に対し実施</li> </ul> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関連プログラムの磨き上げ</li> <li>・修学旅行一度に 200 名の受入れ体制構築</li> </ul> <p>【令和 2 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設体験ツアー 26 コースをスタート</li> <li>・SUP、シーカヤックガイド 8 名を養成</li> </ul> <p>【令和 3 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁船クルーズ事業の開始</li> </ul>																																				
	<p>(定量的な評価)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #333; color: white;"> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">2018</th> <th style="width: 10%;">2019</th> <th style="width: 10%;">2020</th> <th style="width: 10%;">2021</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HP アクセス数</td> <td>回</td> <td>23,000</td> <td>32,658</td> <td>181,775</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>体験プログラム参加者数</td> <td>人</td> <td>858</td> <td>996</td> <td>1,102</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>津波伝承施設入館数</td> <td>人</td> <td>-</td> <td>66,785</td> <td>29,680</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>臨海観光施設入館者数</td> <td>人</td> <td>-</td> <td>132,165</td> <td>100,383</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>海浜キャンプ場宿泊者数</td> <td>人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,610</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	2018	2019	2020	2021	HP アクセス数	回	23,000	32,658	181,775	—	体験プログラム参加者数	人	858	996	1,102	—	津波伝承施設入館数	人	-	66,785	29,680	—	臨海観光施設入館者数	人	-	132,165	100,383	—	海浜キャンプ場宿泊者数	人	-	-	2,610	-
項目	単位	2018	2019	2020	2021																																
HP アクセス数	回	23,000	32,658	181,775	—																																
体験プログラム参加者数	人	858	996	1,102	—																																
津波伝承施設入館数	人	-	66,785	29,680	—																																
臨海観光施設入館者数	人	-	132,165	100,383	—																																
海浜キャンプ場宿泊者数	人	-	-	2,610	-																																
<p>実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること (別添可)。</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>釜石市と民間事業者 (銀行 3 行、商工会議所等) 出資の第 3 セクターとして法人化。</p> <p>観光推進の最高意思決定者を市長とする「釜石観光推進機構」のもと、観光に関わる多様な関係者とDMOとが連携して地域の観光を推進している。</p>																																				



## 2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



※釜石は8つの行政区に分かれるが、「うみ・やま連携」を活発化する3つのエリア分けを設定

【区域設定の考え方】

釜石市は、岩手県の沿岸部リアス式海岸の「三陸復興国立公園」の中心に位置し、標高1,300Mクラスの3つの山と4本の川など、豊かな自然に恵まれた地域である。

## (別添) 様式 1

明治 22 年の町村制施行により釜石村と平田村が合併し釜石町として誕生した。昭和 12 年に釜石市となり、昭和 30 年に旧釜石市、甲子村、鶴住居村、栗橋村、唐丹村が合併し、今の釜石市の姿となった。山、岬、入江、川等の険しい地形により地区を結ぶ交通アクセスに課題があり、長い間、市内のコミュニケーションを分断してきた。そのため、各地区の市民が釜石市内全域を回遊することは少なく、釜石市民でありながら、釜石市の中心部（東部・平田地区）以外の地区には足をほとんど運ばないという方も多いのが課題であり現状である。観光振興においても、これまでの多くの取組みが、地区ごとに独立して行われてきた。

一方で、鉱物資源・森林資源に恵まれた釜石市の山が川の流れを通じて三陸沿岸地域の豊かな生活を育ててきた実態や、山間部と沿岸部の市民の連携があったからこそ生まれた近代製鉄産業等、釜石市民の誇りにつながる「うみ・やま連携」の歴史がある。これは、三陸沿岸地域の近隣市町村と比較すると釜石市の特筆すべき独自価値といえる。

そこで釜石市の観光振興ビジョンでは「うみ・やま連携」を活発化する 3 つのエリア分けを設定した。

- (1) 世界と繋がる山と海（鶴住居川流域エリア）
- (2) 鉄都・釜石の大動脈（甲子川流域エリア）
- (3) 仙台伊達藩の藩境（五葉山・唐丹エリア）

観光資源に一定のまとまりをもつ地域でグループ化し、コースを仕立てることで、釜石市内の複数エリアの観光回遊性の向上を図る。

### 【観光客の実態等】

#### ① 観光客入込客数

観光客入込客数は、震災前の 780,835 人（平成 22 年度）をピークに、平成 26 年度は 221,108 人まで大きく落ち込んだものの、平成 30 年度は 516,119 人の水準まで戻ってきている。令和元年度は、観光関連施設の開設や、ラグビーワールドカップによる誘客効果もあり、911,449 人であった。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、378,695 人と大きく減少した。

#### ② 延べ宿泊者数

直近の推移は、平成 29 年度 220,303 人、平成 30 年度 207,027 人、令和元年度 185,582 人、令和 2 年度 81,389 人であり、釜石市への宿泊者は年々減少している。復興事業が縮小していくのに伴う作業員の宿泊需要減を、観光・ビジネスで穴埋めできていない状況が続いている。

宿泊客の減少に歯止めをかけるための施策として、DMO はナイトタイムコンテンツとして、「うにのまち釜石プロジェクト」を実施した。DMO が開発した「うにスープ」を市内飲食店が「うにしゃぶ鍋」「うにリゾート」「うにパスタ」等に利用している。利用している店舗には一定の成果があるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、まち全体の取り組みには至っていない。また、滞在型コンテンツとして新規開設したキャンプ場については、年間宿泊者が 2,610 人と予想以上の集客ができています。

令和 3 年度は、ワーケーション需要を取り込むべく、市内に DMO がワーケーションセンターを開設する。

#### ③ 消費額等

観光客一人当たりの旅行総予算額（宿泊代、飲食代、お土産代、観光代の合計）の直近 2 年間の推移は、平成 30 年度が 46,241 円、令和元年度が 43,829 円である。宿泊を伴う旅行にするために、体験ツアーをはじめとするコンテンツを増やしていき、釜石での滞在期間を長くすることで旅行消費額を増加させることを目指してきた。また、高付加価値のお土産品「うにしゃぶ鍋セット」「うにパエリア鍋」を開発した。

(別添) 様式 1

釜石市で知名度の高い観光資源は、三陸鉄道（交通手段）、釜石まつり（祭り・イベント）、橋野鉄鉱山（世界遺産・明治日本の産業革命遺産）であり、訪問目的として評価され、訪問者の満足度が高いのは「自然景観」との調査結果が出ている。ただし、三陸沿岸の近隣地域と比較して競争優位性の高い自然景観が釜石にあるわけではなく、観光の目玉となるコンテンツ作りが急務であった。令和2年度は、津波伝承施設やキャンプ場のコンテンツ造成に注力し、体験プログラムは1,102名を集客した。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

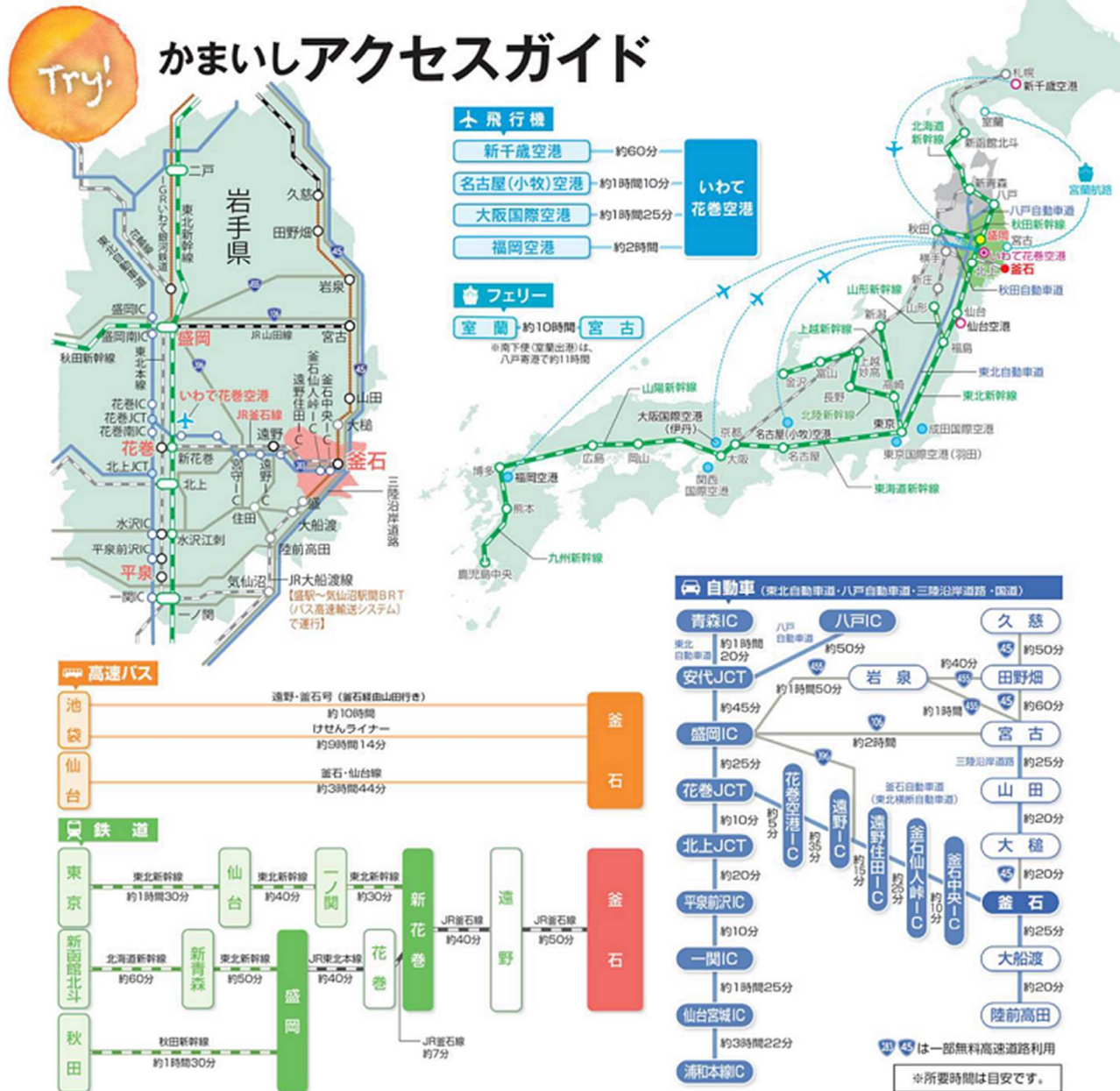
分野	名称	概要	活用・状況等
観光施設	釜石大観音	リアス式海岸の絶景を見渡せる	コンテンツ化
	橋野鉄鉱山（世界遺産）	近代日本を支えた最大の製鉄所	コンテンツ化
商業施設	シープラザ	釜石駅前の物産館	観光の拠点化
	道の駅釜石仙人峠	内陸部からの入り込みの玄関口	観光客の窓口
	橋野どんぐり広場	橋野地域の産直	休憩・買い物
	かまりば	飲食店の集積エリア	NTエコノミー
	魚河岸テラス	釜石の食の発信施設	観光の拠点化
	鶴の郷交流館	鶴住居駅前の物産館	観光の拠点化
	自然	根浜海岸	美しい砂浜とマリン整備
根浜シーサイド		オートキャンプ場、レストハウス等	海浜観光拠点
五葉山		花々が美しい山	トレッキング
甲子川		鮎の食味日本一を受賞	計画中
漁船クルーズ		観光船の代替	実施中
みちのく潮風トレイル		トレッキング、写真ツアー実施	継続実施
釣り		海釣り、川釣り等	大会実施
文化	鉄の歴史館	製鉄の歴史、釜石の鉄作り	案内中
	釜石郷土歴史館	戦前からの市民の暮らし	案内中
	旧釜石鉱山事務所	国登録有形文化財	案内中
	いのちをつなぐ未来館	津波伝承館	観光拠点
	釜石祈りのパーク	東日本大震災慰霊施設	観光拠点
	漁業体験	定置網見学、漁業体験ツアー	実施中
	林業体験	体験コース実施、工作等	実施中
教育	防災教育	釜石の出来事の取組等	人気コンテンツ
スポーツ	釜石鶴住居復興スタジアム	体験ツアー等を案内	人気コンテンツ
	仙人峠マラソン	毎年10月実施	現在調整中
	釜石はまゆりトライアスロン国際大会	トライアスロン大会	現在調整中
	釜石オープンウォータースイミング	水泳大会	現在調整中
イベント	春の桜まつり	薬師公園にて4～5月開催。	実施
	唐丹町さくらまつり	3年に1度開催。	現在調整中
	橋野鉄鉱山八重桜まつり	5月に開催。	今年度休止
	釜石よいさ	大町メイン通りにて8月開催。	現在調整中
	うみやま郷土芸能大競演	7月開催。	今年度休止
	納涼花火	8月開催。	現在調整中
	釜石まるごと味覚フェスティバル	9月開催。	現在調整中
	釜石まつり	漁港からシープラザ釜石にかけて、10月開催。	現在調整中
鉄道	三陸鉄道	市域を南北に縦断。	体験企画実施
	SL 銀河	釜石線にて運行。	地域連携

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

施設数：ホテル 10 軒（約 1200 名）、旅館 8 軒（約 240 名）、民泊 10 軒（約 30 名）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

① 釜石市までの交通アクセス



(出典：釜石市ホームページ)



②域内交通



※釜石市内は、JR・三陸鉄道の鉄路が主な交通手段であり、駅から離れた地域へはバスやレンタカーでの車移動となる。  
尚、JR山田線（宮古－釜石間）は三陸鉄道に移管され、久慈市から大船渡市までが繋がった。

【外国人観光客への対応】

ラグビーワールドカップ 2019™日本大会が釜石市で開催されるのを機に、訪日外国人観光客の受け入れ拡大に必要な施設や、Wi-Fi スポット等の通信環境、多言語化サイン、洋式トイレの整備を行った。

ソフト面では、国際交流課の外国人スタッフによる商店等へのおもてなし出張研修や、通訳ボランティアの育成等が行われた。

DMOでは、津波伝承施設の英語化を実施し、令和3年は体験プログラムの英語化に努める。

### 3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握。	Google アナリティクスを使用
住まう誇り	DMOの目的である住まう誇りの醸成について数値化・把握するため	アンケートを2020年8月実施
観光に対する住民の意向	市民の観光誘客に対する意向理解	アンケートを2020年8月実施
観光客の満足度	顧客満足度の向上	アンケートを実施
観光客の消費額	消費額から経済効果を知るため	アンケートを実施
観光施設利用者数	観光客の施設利用を知るため	施設より収集
着地ツアー参加者数	人気プログラムの把握	DMOで把握
延べ宿泊者数	宿泊者数の把握、増加	宿泊施設より収集
リピーター率	リピーター率の把握、増加	アンケートを実施
観光客入り込み数	入り込み人数の把握、増加	アンケートを実施
外国人入り込み数	入り込み人数の把握、増加	宿泊施設等より収集

### 4. 戦略

#### (1) 地域における観光を取り巻く背景

釜石市では、高速道路の開通や当社で行っているプロモーション効果も手伝い、観光入込数は大幅に上昇している。しかし、宿泊客数については、復興作業の終了に伴い減少し続けている状況にある。こうした地域課題に対し、当社は、市や観光物産協会、その他多様な関係者との協議のうえ、打ち手を提案し実施している。

#### (2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<b>強み (Strengths)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ビジネスホテルによる三陸沿岸地域最大級の観光客収容力</li> <li>✓ ユネスコ世界遺産として登録された橋野鉄鉱山を含む産業遺産群</li> <li>✓ 産業都市としての歴史</li> <li>✓ 全国的に有名なラグビー</li> <li>✓ 鉄の歴史から導かれた、外部からでも新しい人やものを迎え入れる開かれた気質</li> <li>✓ スポーツ交流や防災・歴史教育、等に熱い想いを持つ観光人材の存在</li> <li>✓ Meetup Kamaishi 等に参加される意欲的な観光人材の存在</li> <li>✓ 海産物だけではなく、豊富な水や甲子柿をはじめとした優れた食資源</li> <li>✓ 海と山、多くの入り江や岬をもつ釜石市ならではの地形</li> </ul>	<b>弱み (Weaknesses)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 低下している被災地としての集客力（被災地ツアーの減少から）</li> <li>✓ シープラザ釜石等の観光施設の集客力低下</li> <li>✓ 全国的に見て良いとはいえない交通アクセス</li> <li>✓ 象徴的なイメージが確立されていない観光資源（代表的な景勝地や名物料理の不在）</li> <li>✓ 外部に向けた情報発信力が弱い</li> <li>✓ 地域内における情報共有が弱い</li> <li>✓ 観光地として地域が一体となった推進力（観光に関わる人材の連携等）</li> <li>✓ 観光事業推進への機運の低さ</li> </ul>

(別添) 様式 1

外部環境	<p><b>機会 (Opportunity)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ラグビーワールドカップ 2019™日本大会による注目</li> <li>✓ 橋野鉄鉱山がユネスコ世界遺産に登録</li> <li>✓ 国道 283 号「東北横断自動車道釜石秋田線 (釜石～花巻)」、国道 45 号「三陸沿岸道路」等の主要幹線道路が開通し利便性が向上</li> <li>✓ JR山田線 (宮古～釜石間) が復旧 (三陸鉄道へ運営を移管)</li> <li>✓ いわて花巻空港の台湾への国際チャーター便運航と定期便化</li> <li>✓ アジア新興国の経済成長により訪日外国人観光客が急増し、岩手県においても宿泊旅行者は増加傾向 (コロナ以前)</li> </ul>	<p><b>脅威 (Threat)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 訪日外国人観光客を含む観光需要獲得に向けた地域間競争の激化</li> <li>✓ 同様の観光資源を有する三陸沿岸地域との同化</li> <li>✓ 東日本大震災被災地に対する想いの風化</li> <li>✓ 主要幹線道路整備で釜石市を通過することによる観光客減少懸念</li> </ul>
------	--	---

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入 (様式自由)。

**(3) ターゲット**

<p>○第1ターゲット層 首都圏の企業研修マーケット 新入社員～若手～ミドルを対象</p>
<p>○選定の理由 「観光入込調査」(DMO実施)を実施する都度、関東圏からの来訪者は30%と高い割合となっている。年齢層は40～50代が中心であり、旅行消費額も高いことから、この層をターゲットと定めた。ただし、この顧客層に幅広くリーチするにはコストを要するため、企業研修の誘致にポイントを絞ることにした。 企業研修の受入れは地域と当該企業との結びつきを強め、地域に来訪者の人数以上の大きな影響を与える力を持つ。また、次年度以降のリピートを見込めるため有効な戦略であると考え。</p> <p>○取組方針 新入社員研修、ミドル研修など各階層へのプログラムの提供していく。企業へ直接訪問のほか、研修実施会社と連携する。ワーケーションについても、日本能率協会等と連携し、取り組む中で提供プログラムを磨き上げている。</p>
<p>○第2ターゲット層 ラグビーをキーとするターゲット (特に、欧米やオセアニア地域)</p>
<p>○選定の理由 インバウンドについては、ラグビーとの関連で欧米の宿泊者が一定割合滞在していることから、このターゲットを伸ばす取り組みを行っている。</p> <p>○取組方針 ラグビー合宿、イベントの誘致、教育旅行の受入れに注力する。</p>
<p>○第3ターゲット層 (コロナ禍におけるターゲット) 近県の修学旅行</p>
<p>○選定の理由 インバウンドの受入れが戻るまでは、近県の修学旅行 (高校・中学) に注力する。令和2年度は本来、東京近郊に行く予定であった修学旅行需要を獲得でき、受入れノウハウも蓄積した。</p>

(別添) 様式 1

<p>○取組方針 地域の NPO 等の協力を得て、受入体制を強化していく。</p>
---

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	<p>～挑戦し続けるリアル博物館～ オープン・フィールド・ミュージアム KAMAISHI</p>
②コンセプトの考え方	<p>釜石に固有の自然・歴史・文化等、市域全体を屋根のない「博物館」とみなし、「人」にスポットを当てた、「人」に会いにくる観光を実践している。「人」に会いに来る観光は、リピート率が高く、大人数の通過型観光ではない、少人数の滞在型観光を実現できる。</p> <p>幕末・明治時代の日本急成長の原動力ともなった製鉄（世界遺産）、世界大戦による荒廃、度重なる自然災害、そして少子高齢化、1次産業の衰退と様々な問題に直面する中、これらの試練に対して、常にいち早く、時代に先駆けて挑戦してきた釜石の姿、そして挑戦する人々の姿を訪問者に提供する。</p> <p>(例) 現在は東日本大震災の再生力（レジリエンス）について、釜石のリーダーたちによるセッションが人気のコンテンツになっている。</p> <p>◆観光客、研修、修学旅行 釜石を訪問し「時代に先駆け、挑戦し続ける釜石」を体験できる。</p> <p>◆観光にかかわる市民 震災からの復興過程を語り伝えること、先を見据えた現在の取り組みを来訪者と共有すること、相対評価を得ることで市民の郷土愛が醸成される。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
<p>戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。</p>	<p>【釜石観光推進機構】 観光推進の最高意思決定者を市長とする「釜石観光推進機構」のもと、観光に関わる多様な関係者とDMOとが連携して地域の観光を推進している。 各部会、事業報告会（観光フォーラム）の開催。</p> <p>DMOを中心として、地域の関連事業者を集めてのコミュニケーションの場を6ヶ月に1回程度設け、方向性を共有する。 活動の意義・内容・成果、KPIの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、観光審議会でも報告している。</p>

(別添) 様式 1

<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<p>サステナブルツーリズム国際認証（グリーンツーリズム/オランダ本部）について、日本で初めてアセスメントを受け、「2018年持続可能な観光地TOP100」に認定された。以降、「世界の持続可能な観光地100選」や「グリーン・デスティネーションズ・アワード ブロンズ賞」など、2020年までに4回の国際的な賞を受賞。 「観光地管理」26項目、「自然・景観・野生動物保護」8項目、「環境と気候変動」20項目、「文化と伝統への配慮」5項目、「社会福祉」22項目、「ビジネスとホスピタリティ」19項目のアセスメントを受け、改善に取り組んでいる。 ここでは、観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みについて、当社の取組みが世界の他地域と比べて相対的に評価されている。</p>
<p>観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション</p>	<p>釜石市内の体験ツアーは、体験ツアー専用ページで募集されるほか、①弊社のSNS、②市民ホールを運営するまちづくり会社のホームページ、③市のホームページ、④広報かまいし（釜石市広報誌）、⑤市内の観光施設等で情報発信されている。また観光人材のFacebook背景画像が共通のキャンペーン画像に統一されるプロモーションを実施している。さらに、令和3年はDMOのホームページと観光物産協会、まち会社とで連携したホームページが開設される。</p>

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

## 6. KPI（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

### (1) 必須KPI

指標項目		2018 (H30) 年 度	2019 (R1) 年 度	2020 (R2) 年 度	2021 (R3) 年 度	2022 (R4) 年 度
●旅行消費額 (円/人)	目標	<del>( )</del>	<del>( )</del>	48,212 (-)	50,623 (-)	53,154 (-)
	実績	54,234 (-)	43,829 (-)	20,000(注) (-)	<del>( )</del>	<del>( )</del>
●延べ宿泊者数 (人)	目標	<del>( )</del>	250,000 (-)	210,000 (-)	88,150 (-)	94,911 (-)
	実績	200,693 (1,068)	185,582 (1,352)	81,389 (95)	<del>( )</del>	<del>( )</del>
●来訪者満足度 (%)	目標	<del>( )</del>	70.0 (-)	73.0 (-)	76.0 (-)	78.0 (-)
	実績	65.6 (-)	73.2 (-)	72.0 (-)	<del>( )</del>	<del>( )</del>
●リピーター率 (%)	目標	<del>( )</del>	75.0 (-)	75.0 (-)	75.0 (-)	75.0 (-)
	実績	70.9 (-)	74.0 (-)	76.0 (-)	<del>( )</del>	<del>( )</del>

(別添) 様式 1

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

(注) 旅行消費額について、2020 年初夏の調査は、新型コロナウイルス感染症により、未実施。

### 目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

#### 【検討の経緯】

平成 30 年 4 月 2 日の当社設立以前は観光関連データのうち「観光入り込み者数」「宿泊者数」以外が存在しないため、平成 30 年度において 3 回の観光調査を実施し、必要データを収集した。以後、令和元年より、初夏と秋の年 2 回のアンケート実施を行うこととした。ただし、令和 2 年の初夏は新型コロナウイルス感染症の影響で調査が行えなかった。必須 K P I 以外にも持続的な観光地の観点から、令和 2 年度は住民の観光意識調査を行った。

#### 平成 30 年度以降に実施した観光調査概要

調査対象	市外からの旅客 20 代以上の男女
調査場所	釜石駅、道の駅仙人峠、橋野鉄鉱山、旅館、ホテル、釜石鶴住居復興スタジアム、魚河岸テラス、いのちをつなぐ未来館
調査日/ 回収数	2018 年 5 月 4 日 (祝) 235 サンプル 2018 年 8 月 19 日 (日) 247 サンプル 2018 年 10 月～11 月の 8 日間 175 サンプル 2019 年 4 月 27 日～5 月 6 日 199 サンプル 2019 年 11 月 14 日～12 月 26 日 100 サンプル 2020 年 9 月 20 日～11 月 8 日 191 サンプル
調査方法	調査票配布による対象者自身が記載する記入式調査
参考資料	観光庁 旅行・観光消費同行調査

#### 【設定にあたっての考え方】

##### ●旅行消費額 (旅行総予算)

平成 30 年度の実績は、実施した 2 回のアンケート結果 (5 月=60,921 円/人、8 月=43,829 円/人) の平均値である 46,241 円/人とした。また、令和元年度の実績は、実施した 2 回のアンケート結果 (5 月=54,234 円/人、8 月=33,424 円/人) の平均値である 43,829 円/人とした。令和 2 年後以降の目標については、令和元年度実績の 10%増を目安とする。令和 2 年度は、令和元年度にオープンした市内の観光関連施設 (レストラン・カフェ・土産店等) が観光客に浸透してきたことから、消費額増加が期待できるため。翌年度以降は、5%程度の上昇を見込んでいる。

※目標について、令和 2 年度は、初夏のアンケート調査を実施できなかったことから、令和元年度調査の結果を引き続き活用する。

##### ●延べ宿泊者数

釜石市商工観光課で収集している数値を用いる。今後の目標としては、復興需要が終了するほか、開催されたラグビーワールドカップ効果による宿泊者があまり増加しなかったことを考慮すると、急激な宿泊者の増加は見込めないため、令和 5 年度までに平成 28 年度の宿泊者数 236,900 人を目標とした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊者数が大幅に減少したことから、令和 2 年度の実績を参考に、令和 3 年度以降の数値を再計算した。

##### ●来訪者満足度

アンケートにおいて満足度を次の①～⑧の項目に細分化し、「期待していたこと」と「その評価 (満足～不満まで 5 段階)」を調査。①「食べ物・地域特産」②「買い物・土産」③「自然景観」④「名所・寺社」⑤「街並み」⑥「体験・レジャー」⑦「イベント」⑧「その他」。

K P I は回答者が「満足」としている 5 段階評価の上位 2 項目「満足」「やや満足」の合計した値の①～⑦の平均値とする。平均値向上の対策は、「期待していたこと」と「その評価」との乖離が

(別添) 様式 1

大きく、且つDMCとして低コストで取り組める「体験・レジャー」「イベント」の満足度向上に努めることで、全体の満足度を向上させる。

平成30年調査 65.6%を起点とし、令和5年度目標値 80%へ向けて改善していく。

●リピーター率

平成30年度5月調査と10月調査の平均値で算出。8月調査はラグビーを目的とするリピーターが多くリピーター率が83%にも及んでいることから、ここでは除外した。

令和元年度以降は75%の水準を維持する目標としている。

(2) その他の目標

指標項目		2018 (H30) 年 度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度
●体験プログラム 参加者数(人)	目標	<del>                    </del> (-)	880	960	1,040	1,080
	実績	858 (-)	996 (-)	1,102 (-)	<del>                    </del> (-)	<del>                    </del> (-)
●観光入込客数 (人)	目標	<del>                    </del> (-)	600,000	438,700	485,830	532,960
	実績	516,119 (-)	911,449 (-)	378,695 (-)	<del>                    </del> (-)	<del>                    </del> (-)
●津波伝承施設等 入館者数(人)	目標	<del>                    </del> (-)	66,785	24,000	31,000	37,000
	実績	- (-)	16,000 (-)	29,680 (-)	<del>                    </del> (-)	<del>                    </del> (-)
●HPアクセス数 (回)	目標	<del>                    </del> (-)	100,000	150,000	180,000	200,000
	実績	23,000 (-)	32,658 (-)	181,775 (-)	<del>                    </del> (-)	<del>                    </del> (-)

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

## 指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

### 【検討の経緯】

入り込み数を正確にカウントするため、複数の観光関連施設に人数カウンターを設置した。このうち、特に津波伝承施設は、釜石市の津波被害の教訓を後世に伝えるものとして、釜石への訪問の目的となるよう KPI を設定した。

体験プログラムについては、大量に人数を受入れるのではなく、有料のツアーを適切な価格で販売していくことを目指すこととした。

### 【設定にあたっての考え方】

#### ●体験ツアー参加者数

これまで不定期で実施している体験ツアーをデータに基づき、定番化、改善していく。平成 30 年度の件数をベースに定期開催に向けて体制の整備を行い、年々の上積みを図る。

#### ●観光入込客数

これまで釜石市商工観光課で集約していた数をベースに上積みを図る。平成 31 年度が突出しているのは、ラグビーワールドカップ 2019™が当市で開催され、県外・国外からの入込数増加が見込まれるため。その後一旦入り込み数が落ち込むと予想されるが、ラグビー競技場を用いたイベント等を企画することで入り込み数の増加を見込む。

#### ●イベント集客数

令和元年より釜石市の津波伝承施設等（うのすまい・トモス）を当社にて施設管理することになり、釜石市の観光施設としてより多くの方（個人・団体）に来館を促すため KPI を設定する。設定した数字は開館前の想定であり、実際の状況を踏まえて修正していく。

#### ●ホームページアクセス件数

SNS（Facebook、Twitter、Instagram）と連動させアクセスを高める。EC サイト機能を持たせ、観光・物販の購入を可能にする。

## 7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後 3 年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。

※現に活動している法人にあつては、過去 3 年間の実績も記入すること。

### （1）収入

年（年度）	総収入（千円）	内訳
2018（H30）年度 【実績】	68,972 千円	【収益事業】 322 千円 【指定管理収入】 1,914 千円 【受託事業収入】 47,703 千円 【国補助金・交付金】 19,033 千円
2019（R1）年度 【実績】	197,893 千円	【収益事業】 8,495 千円 【指定管理収入】 68,252 千円 【受託事業収入】 102,220 千円 【国補助金・交付金】 18,920 千円



## (別添) 様式 1

2020 (R2) 年度 【実績】	269,689 千円	【収益事業】 48,103 千円 【指定管理収入】 69,568 千円 【受託事業収入】 129,602 千円 【国補助金・交付金】 22,416 千円
2021 (R3) 年度 【目標】	432,100 千円	【収益事業】 60,000 千円 【指定管理収入】 62,100 千円 【受託事業収入】 310,000 千円 【国補助金・交付金】 0 千円
2022 (R4) 年度 【目標】(当初計画 から R3 年度上方修 正)	435,000 千円	【収益事業】 65,000 千円 【指定管理収入】 60,000 千円 【受託事業収入】 310,000 千円 【国補助金・交付金】 0 千円
2023 (R5) 年度 【目標】	440,000 千円	【収益事業】 70,000 千円 【指定管理収入】 60,000 千円 【受託事業収入】 310,000 千円 【国補助金・交付金】 0 千円

## (2) 支出

年(年度)	総支出(千円)	内訳
2018 (H30) 年度 【実績】	62,459 千円	【DMO 設立】 5,144 千円 【外部人材招聘、人材育成等】 2,354 千円 【観光体験プログラム実施】 2,992 千円 【食ブランド開発・販路開拓】 4,752 千円 【広報・PR・プロモーション】 0 千円 【観光施策に係る調査・計画策定等】 3,791 千円 【一般管理費】 43,426 千円
2019 (R1) 年度 【実績】	187,174 千円	【外部人材招聘、人材育成等】 1,000 千円 【観光体験プログラム実施】 3,000 千円 【食ブランド開発・販路開拓】 4,200 千円 【広報・PR・プロモーション】 6,600 千円 【観光施策に係る調査・計画策定等】 4,120 千円 【一般管理費】 168,799 千円
2020 (R2) 年度 【実績】	268,081 千円	【外部人材招聘、人材育成等】 560 千円 【観光体験プログラム実施】 3,040 千円 【食ブランド開発・販路開拓】 3,070 千円 【広報・PR・プロモーション】 3,660 千円 【観光施策に係る調査・計画策定等】 3,200 千円 【一般管理費】 254,551 千円
2021 (R3) 年度 【目標】	430,100 千円	【外部人材招聘、人材育成等】 1,500 千円 【観光体験プログラム実施】 4,134 千円 【食ブランド開発・販路開拓】 430 千円

(別添) 様式 1

		<b>【広報・PR・プロモーション】</b> 2,500 千円 <b>【観光施策に係る調査・計画策定等】</b> 4,000 千円 <b>【一般管理費】</b> 417,536 千円
2022 (R4) 年度 【目標】(当初計画 から R3 年度上方修 正)	432,000 千円	<b>【外部人材招聘、人材育成等】</b> 1,500 千円 <b>【観光体験プログラム実施】</b> 2,000 千円 <b>【食ブランド開発・販路開拓】</b> 1,000 千円 <b>【広報・PR・プロモーション】</b> 2,500 千円 <b>【観光施策に係る調査・計画策定等】</b> 4,000 千円 <b>【一般管理費】</b> 421,000 千円
2022 (R5) 年度 【目標】	437,000 千円	<b>【外部人材招聘、人材育成等】</b> 1,500 千円 <b>【観光体験プログラム実施】</b> 2,000 千円 <b>【食ブランド開発・販路開拓】</b> 1,000 千円 <b>【広報・PR・プロモーション】</b> 2,500 千円 <b>【観光施策に係る調査・計画策定等】</b> 4,000 千円 <b>【一般管理費】</b> 426,000 千円

**(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針**

当社は、官民が連携する釜石の観光振興ビジョンの推進を目的に株式会社として設立した。民間感覚を取り入れた経営により補助金への依存を軽減させるとともに、観光業や地域商社的な役割を担うことで自主財源を確保し、継続的な活動を図っていく。

設立3年終了時に、釜石市の出資金を払い戻すことにより、釜石市の出資比率を66%から49%に減じる施策を行う。釜石市は当社設立時に株数300(1株あたり5万円)、金額にして1500万円の出資を行っていたものの、株式譲渡により、株数160(時価1株あたり10万円)、金額にして約1570万円を釜石市に払い戻す。

釜石市の地域DMOであるため、筆頭株主が釜石市であることを維持しつつも、他の株主である金融機関や商工会議所及び地域の民間企業との関係を強化、および経営の自主性を発揮していく。

**8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見**

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。

岩手県釜石市は、株式会社かまいしDMCを同市における地域DMOとして登録したいので株式会社かまいしDMCとともに申請します。

**9. マーケティング・マネジメント対象区域が他の地域連携DMOや地域DMOと重複する場合の役割分担について (※重複しない場合は記載不要)**

【他の地域連携DMOや地域DMOとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った(行っている)か】

エリアが重複するさんりくDMO及び岩手県観光プロモーション室とは、随時連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。

【区域が重複する背景】

かまいしDMCが設立される以前より、さんりくDMOは存在したため。

【重複区域における、それぞれのDMOの役割分担について】

さんりくDMOは、釜石以外のDMOの存在しない地域に注力しているため、役割は重複していない。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

情報交換は行っているものの、事業の関わりはほぼない。

**10. 記入担当者連絡先**

担当者氏名	①河東英宜、②大杉尚也
担当部署名(役職)	①代表取締役、②経営企画管理部
郵便番号	026-0012
所在地	岩手県釜石市魚河岸3-3
電話番号(直通)	0193-27-5260
FAX番号	0193-27-5261
E-mail	contact@dmo-kamaishi.com

**11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先**

都道府県・市町村名	岩手県釜石市
担当者氏名	平松 福壽
担当部署名(役職)	産業振興部(部長)
郵便番号	026-8686
所在地	岩手県釜石市只越町3-9-13
電話番号(直通)	0193-27-8421
FAX番号	0193-22-2762
E-mail	hiramatsu1354@city.kamaishi.iwate.jp

(別添) 様式 1

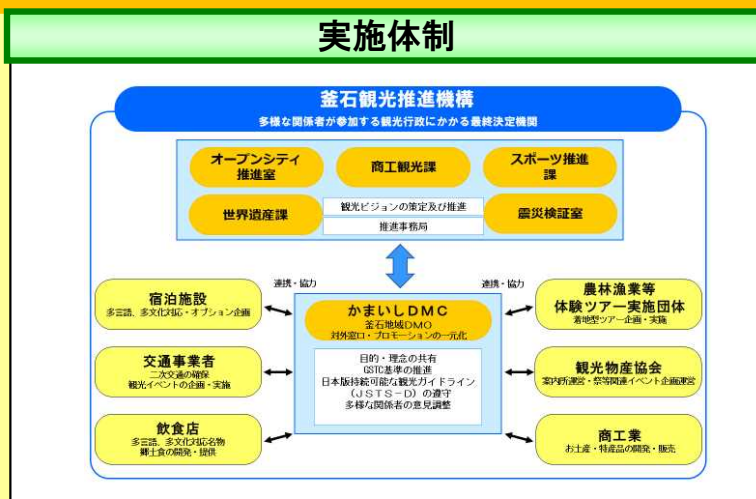
都道府県・市町村名	岩手県釜石市
担当者氏名	二本松 史敏
担当部署名 (役職)	産業振興部商工観光課 (主幹)
郵便番号	026-8686
所在地	岩手県釜石市只越町 3-9-13
電話番号 (直通)	0193-27-2111 (内線 330)
F A X 番号	0193-22-2762
E - m a i l	nihonmatsu1497@city.kamaishi.iwate.jp

# 法人名:株式会社かまいしDMC

## 登録区分名:地域DMO

【区域】 岩手県釜石市  
 【設立日】 2018年4月2日  
 【登録日】 2019年8月7日  
 【代表者】 河東英宜  
 【マーケティング責任者(CMO)】  
 河東英宜(兼任)  
 【財務責任者(CFO)】  
 大杉尚也  
 【職員数】 20人  
 (常勤15人(正職員12人、非正規3人)、非常勤5人)  
 【連携する主な事業者】  
 釜石観光物産協会、釜石商工会議所、  
 (株)パソナ東北創生 等

# (観光地域づくりのコンセプトを記載)



### マーケティング・マネジメントする区域

【主な観光資源】  
 橋野鉄鉱山(世界遺産)、いのちをつなぐ未来館 等

### 合意形成の仕組み

【該当する登録要件】 ②  
 【概要】  
 観光推進の最高意思決定者を市長とする「釜石観光推進機構」のもと、観光に関わる多様な関係者とDMOとが連携して地域の観光を推進している。

### 戦略

【ターゲット①】  
**首都圏の企業研修マーケット**  
 ⇒新入社員研修、ミドル研修など各階層へのプログラムの提供

【ターゲット②】  
**ラグビーをキーとするターゲット(特に、欧米やオセアニア地域)**  
 ⇒ラグビー合宿、イベントの誘致、教育旅行の受入に注力する。

【ターゲット③(コロナ禍におけるターゲット)】  
**近隣の修学旅行**  
 ⇒地域のNPO等の協力を得て、受入体制を強化していく

### KPI(実績・目標) ※()内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
旅行消費額(百万円)	目標	/	/	48,212	50,623	53,154
	実績	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
延べ宿泊者数(千人)	目標	/	/	250,000	210,000	88,150
	実績	200,693 (1,068)	185,582 (1,352)	81,389 (95)	(-)	(-)
来訪者満足度(%)	目標	/	/	70.0	73.0	76.0
	実績	65.6 (-)	73.2 (-)	72.0 (-)	(-)	(-)
リピーター率(%)	目標	/	/	75.0	75.0	75.0
	実績	70.9 (-)	74.0 (-)	76.0 (-)	(-)	(-)

### 法人のこれまでの活動実績

【情報発信・プロモーション】  
 ・外国人向けYoutubeチャンネル等の開設  
 ・オンラインツアー実施

【観光資源の磨き上げ】  
 ・常設体験ツアー26コースをスタート  
 ・SUP、シーカヤックガイド8名を養成

【受入環境の整備】  
 ・持続可能な観光地マネジメントの担当者サステナビリティ・コーディネーターを配置。  
 ・GSTC認定の国際認証機関グリーン・デスティネーションズの認証プログラムに2018年から参画し、「世界の持続可能な観光地100選」や「グリーン・デスティネーションズ・アワード ブロンズ賞」など、2020年までに4回の国際的な賞を受賞。

### 観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

【釜石観光推進機構】  
 観光推進の最高意思決定者を市長とする「釜石観光推進機構」のもと、観光に関わる多様な関係者とDMOとが連携して地域の観光を推進している。各部会、事業報告会(観光フォーラム)の開催。

### 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【主な収入】 自主事業(観光、物販等) 約48百万円(R2年)  
 受託事業(官公庁) 約199百万円(R2年)

【総支出】 268百万円(一般管理費等255百万円、事業費13百万円)  
 ※令和3年3月決算

【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】  
 観光業や地域商社的な役割を担うことで自主財源を確保し、継続的な活動を図る。